

乗雲

寺報

第115号

1985年4月創刊

R3.11.1 発行

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560

編集人
広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

江湖會無事円成

住職になる儀式を山に晋むと書いて「晋山」（しんさん）と言い、併せて結制安居（けっせいあんご）という大事な修行を勤めます。この結制安居を江湖會（こうこえ）と呼びます。今から二千五百年前、お釈迦様が定められた修行方法です。お釈迦様在世の時代、雨期九十日間は外出困難なために、弟子たちはみなお釈迦様のもとに集まり仏道修行に専念しておりました。このことを雨安居または結制安居と言います。後に仏法が中国に伝わり、禅宗が栄えた江国・江南地方で盛んにこの結制安居が行われるようになりました。住職は少なくとも一度は修行僧を集め、昔ながらの修行生活を行わなければなりません。正しい仏法を受け継ぐ曹洞宗では今日でも変わらず昔のとおり修行をしています。禅の栄えた中国の江西省・湖南省にちなみこの儀式を「江湖會」と言います。



このたび当寺の三男、神田恭真（三十五歳）は関川村下土沢の龍峰山雲泉寺に於いて、十月十六日十七日の両日、寺院四十六名、檀信徒百名の出席にて、江湖會を修行し雲泉寺二十九世の法灯を継ぎました。

恭真は昭和六十一年六月十七日広厳寺住職の三男として出生、十歳の時、平成八年八月に長男、二男と共に得度。駒大付属岩見沢高校仏教専修科、駒沢大学仏教学部を卒業すると、愛媛県新居浜の瑞應寺専門僧堂に三年安居する。送行した秋に四国八十八カ所札所を徒歩で巡る。翌年春には大本山永平寺に一年間安居して修行を終えた。平成三十年縁あって雲泉寺の後継者となり、先代片野徹榮方丈様を補佐しながら檀信徒とのつながりを持ち、令和三年三月先住引退に伴い二十九世住職に任命された。雲泉寺は大本山總持寺を開かれた瑩山紹瑾禅師、その弟子の峨山韶碩禅師（峨山禅師には二十五人の弟子がおられた）、その二十五哲の一である源翁心昭大和尚が開山している。約六百五十年の歴史がある由緒あるお寺、恭真は瑞應寺檜崎通元老師のもとで僧侶としての生き方を学んだ。幼少からの書道は瑞應寺で更に影響を受け、今も続けている。これから一住職として本当の修行が始まる。

令和四年 年回忌表

| 〔回忌〕 | 〔没年〕 |
|-------|--------|
| 一周忌 | 令和三年 |
| 三回忌 | 令和二年 |
| 七回忌 | 平成二十八年 |
| 十三回忌 | 平成二十二年 |
| 十七回忌 | 平成十八年 |
| 二十三回忌 | 平成十二年 |
| 二十七回忌 | 平成八年 |
| 三十三回忌 | 平成二年 |
| 五十回忌 | 昭和四十八年 |
| 百回忌 | 大正十二年 |

▼令和四年(2022)来年度の年回忌表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正当各家には十一月中旬に通知しますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせください。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。